

2025年5月22日所長会見 所感

- 本日私からは、3点お話させていただきます。
- 1点目は、6号機の安全対策工事の進捗状況についてです。
- 工事規模の大きい大物搬入建屋、工事物量の多い貫通部の工事についても実施済みとなり、燃料装荷前までに行う安全対策工事及び、使用前事業者検査は一通り実施いたしました。
- 現在は、原子力規制庁による使用前確認を受けており、試験使用の承認がいただけたら、6月10日より予定している燃料装荷を進めてまいります。
- なお、これまでもお伝えしておりますが、安全対策工事については、原子力規制庁による使用前確認をもって完了と考えております。
- それまでの間に気付き等があれば、都度、立ちどまって是正するなど、引き続き、一つひとつ安全最優先で丁寧に進めてまいります。
- 会見後にご取材の機会を設けておりますので、6号機の実際の現場で、ご確認いただければと思います。

- 2点目は、6号機のシーケンス訓練、大規模損壊訓練についてです。
- これらの訓練は、7号機でも実施しておりますが、我々が保安規定に定めている通りに、重大事故が発生した際の対応が出来るかを確認するものです。
- また、燃料装荷前に必要な検査として、原子力規制庁にご確認いただく訓練であり、5月13日から15日にかけてシーケンス訓練を、また昨日5月21日に大規模損壊訓練を実施しました。
- シーケンス訓練については、今回は6号機、7号機の同時被災というシナリオでしたが、決められた想定時間内に対応を実施することが出来ました。
- 私が現場で確認した中でも、常日頃から伝えている、自分達の安全に留意することをしっかりと守ったうえで、一つひとつ的確に対応しており、確実に緊急時の対応能力は向上していると感じております。
- また、大規模損壊訓練については、対応者にシナリオを示さないブラインド訓練となっています。原子炉建屋に航空機が衝突し、全交流電源が喪失。加えて、6号機の原子炉建屋および7号機の変圧器などで、大規模な火災が発生するという事故進展で行っています。
- 今後とも、訓練の振り返りや、原子力規制庁からの気づきなどを踏まえ、現状に満足することなく、安全を追求し続け、地域の皆さまからご安心いただける発電所を目指してまいります。

- 3点目は、4月1日に発生した、南側66kV建屋電源室からの火災についての調査状況についてです。
- 火災が発生した制御用補助変圧器について、当社研究所での調査結果は次のとおりです。
- まず、当該変圧器の巻線には溶けて損傷した痕跡や断線がありましたが、巻線を詳細に確認した結果、錆などの腐食による劣化はありませんでした。
- また、当該変圧器を含む電源装置の内部に、異物の付着やネジのゆるみ等もありませんでした。
- これらの調査結果を踏まえ、当該変圧器自体の劣化や異常等が起因の火災ではないと判断いたしました。
- 4月10日の説明会でお伝えしました通り、制御ケーブルから地絡が発生し、接地線を介して、設計値を上回る電流が当該変圧器に流れ込み、発火に至ったと推定しております。
- 電動弁に繋がる制御ケーブルを調査した結果、3号機タービン建屋の脇にあるケーブルボックスの中で、通常は余長を持たせてケーブルを敷設しているところ、ケーブルの一部に余長がなく、ボックス内の角に食い込んでいることを確認しました。
- 当社研究所での調査の結果、当該ケーブルの1箇所には傷があり、そこから地絡が発生したと推定しております。

- この付近は、中越沖地震の際、建屋周辺の地面が沈下したエリアとなります。その際、地下に埋まっていた電線管が損傷を受け、また電線管内のケーブルも下に引っ張られる形となり、余長がなくなったと推定しております。

- 当時、電線管の補修は実施していましたが、ケーブルまで含めた全体の補修が十分ではなかったと考えております。
そのため、ボックス内でケーブル被覆が角に押し付けられた状態が長年に渡って続き、徐々にケーブルの損傷が進行したものと推定しております。

- 本事案を受け、発電所全体で地上から地面へケーブルがつながっている、建屋壁面の屋外ケーブルボックスを抽出し、約 550 箇所のボックス内のケーブル状況を確認しています。

- 現在、高所を除いたすべてのボックス内の調査は終了しており、1号機周辺で 2 箇所の余長不足を確認しております。1 箇所は、現在使用していないケーブルで、もう 1 箇所は、ケーブルの引っ張りによる影響などについて、確認しているところです。

- 引き続き、発電所一丸となって火災リスクの低減に努めてまいります。